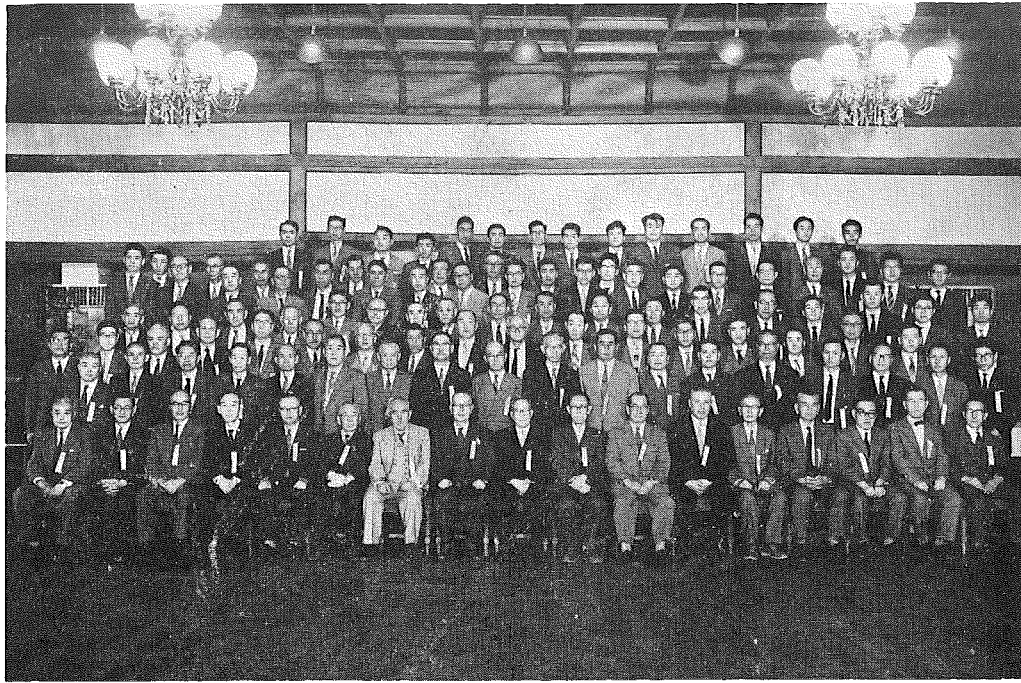


洛友会々報

第十回 洛友会総会(五月十四日 都ホテルにて)



京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

ソリオンの将来

大七 阿部 清

数日前洛友会の幹事長山村先輩から会報の巻頭言として何か書いてほしいとの依頼を受けた。生来私は文章を書くことが最も苦手である上に巻頭言にふさわしいような話の種も持っていないので辞退したかったが巻頭言以外の原稿は全部集まっていたのでこれから執筆者を探しては予定の期日に発行不可能となることと止むを得ずお引受けすることにした。会員諸君は埋草のつもりでお読み願いたい。

最近の電子工学方面の進歩は全く驚異的である。その原因にはもちろんいろいろあると思うが半導体の基礎理論の発達がその主たるものと考えられる。現に数年前に固体電子工学(Solid state electronics)という新語が生れいまやこの方面の一つの学問的分野にまで発展してきた。従来の電子工学が真空中またはガス中の電子あるいはイオンの運動を取扱ったものであったのに対し、半導体機器では固体内の電子またはホールの運動を制御し真空管放電管と類似の特性を得ている。固体電子工学なる名称はこのような理由から生れたものである。最近ではチタン酸バリウム系の強誘電体フェライト系のフェリマグネチック材(Ferrimagnetic substance)までもこの部門で取扱うようになった。

さてガス(真空を含む)と固体以外の物体の状態というところろん液体しかない。固体電子工学に対し液体イオン工学といったような分野はあり得ないであろうか。筆者はいまから約四十年ほど前この疑問を持ち簡単な実験を試みたが成功しなかった。その原因は筆者の智識が不足であったことと高純度の材料が得られなかったためである。ところで、二三年前から電解液を基礎材料とする整流器並びにトランジスタの研究が主として米国で開始された。これがソリオン(Solion)と称せられるものである。既にタルタル板の電解酸化ならびに還元を利用してシリコン制御型整流器と類似の特性をもつ装置を実現している。また高分子を通過させぬ隔膜の片側にH⁺過剰の酸性高分子、他方にOH⁻過剰の塩基性高分子溶液を入れH⁺とOH⁻とは隔膜を通して互に反応し得る装置換言すると半導体におけるp-n接合に相当するもの、さらに鉄イオンの酸化還元を巧みに利用してトランジスタと同様の特性をもつ装置まで発表している。ここで問題となることは動作時間である。周知の通りイオンの易動度は電子やホールのそれに比べると桁違いに遅い。従ってソリオンは超低周波領域にしか使用できない。現在固体

電子工学の中心研究課題が超高周波用半導体機器の構造にあることと対比してソリオンの将来性に大きな疑問を持つ識者も多いと思う。現に筆者は三ヶ月ほど前、我国の電気化学界の権威者が「死期を待つ電気化学」といった題で電気化学界に対する悲観的見解を述べていられる論文を読んだ。然し商用周波数電源を使用する機器で電流、電圧を簡単に制御したい場合は決して少くない。ソリオンはこのような目的には最適であるのみならず半導体機器で苦しんでいる大容量の制御装置が単に電解槽と電極面積を大にするだけで実現できそうに思うから電気化学の分身であるソリオンが進歩すれば此の方面が再び脚光を浴びるようになるであろう。筆者はソリオンの研究が結実し固体電子工学と同様液体イオン工学ともいうべき新しい学問的分野にまで発展することを期待する者である。

端歌「青柳」

昭六 藤田 真

明治、大正卒業の在京先輩は鳥養先生が学士院月例会議出席のための御上京を機会に毎月会合して居られますが、昭和初年卒業の吾々若輩(と申しても今春京都で卒業三十周年同窓会を行なった)は未だ仲間に入れて貰えず、予々羨しく思っています。昭和三年卒業の安達達先輩が中心になり、その後三年五年卒業の在京先輩が洛東会の名の下の

に毎月一夕相集り、良かった京都のありし日を偲び、現在を語り、将来を思い大に語り、呑み、喰う会を始められ、最近その範囲を拡げて二年と六年が加わり益々盛んで毎月その日が来るのを楽しみにして居ります。御上京の方々は是非御参加下さい。

去る四月十八日青木、真壁先輩の幹事で午込双葉荘での集りで二年卒業の堀内多雄先輩から端歌「青柳」の披露があり

青柳の枝に跳るは鳥養な
眺めて通る岡の本
あら珍らしや大竹さん
井の上話を繰り返えし
本野亭にあってよと
たがいに加藤手を握る

当時の教室先生方を調し歌い合めて面白く、三十数年前眠さを誘う晩春の午後、階段教室最上段でノートをブランクにしての労作と教えられました。

昭和六年卒業となりますと、先生が増えましたし、歌の末尾が物足らぬ様にも感ぜられますので、次の通りに加筆させて頂きました。

青柳の林に鳴くは鳥養な
眺めて通る岡の本
あら芝原くわ大竹さん
井の上話を繰り返えし
本野亭りになってよと
たがいに加藤手を握り
阿部くで急ぐ羽村

最後は詰って一寸苦しいようです、羽村先生どうも相すみません。

附記

- 洛東会世話人
昭2 交川 有 中央区銀座五ノ一
三原ビル 宮木電機製作所東京出張所(会) 六五五五
昭3 小池恒久 中央区日本橋通三
西川ビル 東洋レーヨン(株)臨時建設部(SO) 二二二一
昭4 安達達 港区麻布新堀町七
法政大学工学部(会) 一一五一
昭5 真壁昌一 中央区西八丁堀四
ノ一〇 後閑ビル 三宝電機(株)
東京営業所(会) 五五九〇
昭6 藤田 真 品川区北品川五丁目四九〇 高周波熱錬(株)
(44) 五二二一

第十回洛友会総会の記

五月十四日(日)午後三時より新緑薫る京都栗田口都ホテルにおいて第十回洛友会総会が出席者一二六名におよぶ盛會裡に開催された。

まづ鳥養会長が、も早や第十回の総会を迎えいつも盛大な会合をもつことの喜びを述べ、遠く東京、名古屋、四国および九州よりはるばる出席された会員諸君の熱意に答え、会員各位が益々本会のために協力せられるよう希望された。

ついで議事にうつり昭和三十五年度收支決算および昭和三十六年度收支予算(別項参照)は山村幹事説明の後、満場拍手裡に承認可決された。

懇親会にうつり、大ホールにて

昭和36年度收支決算

収入の部		予算額	前年度決算額
会費	900,000	886,500	
本年度分	650,000	601,600	
過年度分	150,000	184,000	
電気講習所	100,000	100,900	
預金利息	50,000	54,323	
雑収入	600,000	228,350	
繰越金	1,408,742	1,101,913	
合計	2,958,742	2,271,086	

昭和35年度收支決算

収入の部		予算額	決算額
会費	840,000	886,500	
本年度分	600,000	601,600	
過年度分	100,000	184,000	
電気講習所	140,000	100,900	
預金利息	30,000	54,323	
雑収入	10,000	228,350	
繰越金	1,101,913	1,101,913	
合計	1,981,913	2,271,086	

支出の部		予算額	前年度決算額
刊行物費	650,000	467,562	
名簿編集費	20,000	18,003	
同印刷費	380,000	247,000	
同発送費	80,000	77,895	
同会報編集費	20,000	12,208	
同印刷費	70,000	46,120	
同同発送費	80,000	66,336	
諸費	486,000	348,882	
備品費	10,000	5,146	
通会費	5,000	1,206	
集金費	15,000	13,578	
総集金費	200,000	102,300	
総掛費	50,000	49,652	
旅費	96,000	96,000	
臨時費	120,000	81,000	
時費	40,000	45,900	
懇話会補助費	40,000	45,900	
予備費	1,065,913	1,408,742	
繰越金	1,065,913	1,408,742	
合計	2,958,742	2,271,086	

支出の部		予算額	決算額
刊行物費	480,000	467,562	
名簿編集費	20,000	18,003	
同印刷費	250,000	247,000	
同発送費	60,000	77,895	
同会報編集費	10,000	12,208	
同印刷費	60,000	46,120	
同同発送費	80,000	66,336	
諸費	396,000	348,882	
備品費	10,000	5,146	
通会費	10,000	1,206	
集金費	10,000	13,578	
総集金費	100,000	102,300	
総掛費	50,000	49,652	
旅費	96,000	96,000	
臨時費	120,000	81,000	
時費	40,000	45,900	
懇話会補助費	40,000	45,900	
予備費	1,065,913	1,408,742	
繰越金	1,065,913	1,408,742	
合計	1,981,913	2,271,086	

ル上に盛られた美味に舌鼓をならし、お互に健康を祝して乾杯しつつ懇談の時を移した。

宴酣にして先斗町美妓による余興が始まり、来葉の「さみだれ」、豆六、もみ葉の「六段くずし」、舞妓もみの、品君の「京の四季」などの

舞踊はあざやかにて一段興をそえたり。

終りに大先輩高橋保氏(明四三卒)の発声に和して洛友会の万歳を三唱して散会した。時に午後六時。

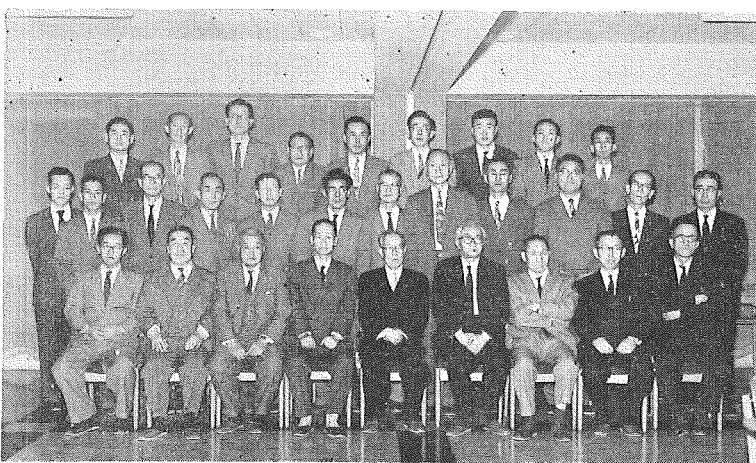
預金および現金

定期預金	1,000,000	店友銀行京都支店
		第一銀行百万遍支店
普通預金	285,045	第一銀行百万遍支店
		住友銀行京都支店
当座預金	772	第一銀行百万遍支店
振替貯金	7,876	
立替金	114,349	
現金	700	電気評論
合計	1,408,742	

洛友会中部支部

春季総会の記

四月二十二日午後一時三十九分、鳥養会長、林先生および山村幹事の名古屋駅にお迎えして本多静雄君の案内および説明で丸柴百貨店に開催中の古瀬戸展を見る。問題の永仁の壺などもあって本多君の専門的な解説に先生方もすっかり喜ばれる。車をつらねて森の新緑が目にしみる熱田神宮に詣で、参拝後本殿において鳥養会長の長寿祈願ならびに教室・会員の発展祈願の式をとりおこなった。厳かな神殿に神秘的雅楽がなされ、祈願の祝詞奏上の後、古式ゆたかに盛装した二人の若い神女によって扇と鈴による古代舞がはなやかに



また淨らかに舞いおさめられた。式後、鳥養先生の御発明が実用化されている高周波熱錬株式会社名古屋工場を見学、高周波焼入れが如何に産業界に広く貢献しているかを目のあたりにみた。定刻五時三十分には会場である中電健保会館に到着、次第に集る会員約三十名が先生方とまた会員同志で久しぶりの会合を喜びあつた。六時開会、支部長挨拶、会長挨拶、庶務報告、会計報告、役員改選の後、林先生から教室の近況報告、山村幹事から洛友会の状況報告があり総会を閉じた。会後宴にうつり、余興として名古屋の文化

鳥養会長 林先生 山村幹事 静雄君 丸柴百貨店 永仁の壺 本多君 森の新緑 熱田神宮 鳥養会長 長寿祈願 教室 会員の発展祈願 厳かな神殿 神秘的雅楽 古式ゆたかに盛装した二人の若い神女 扇と鈴による古代舞

洛友会中国支部総会記事

電気学会講演のため御来広になった鳥養先生をお迎えし、山村幹事の御来駕を得て、四月二十五日十八時より支部会員三十二名出席のもと、広島市内八重において春季総会を開催した。今回から電気工学講習所卒業生も加わっていただいたが、出席率は非常によかった。総会は真田支部長のあいさつに始まり、鳥養先生の話に、名講義の思い出し、山村幹事の洛友会近況報告にその御苦勞を感謝し、支部会計報告を終え宴会に入った。ピチピチとはね新鮮な魚の白魚など料理に舌鼓を打ち、広島銘酒をかわしつつ自己紹介の多士済々たるかくし芸の披露など時間の立つのも忘れ学生時代にかえって晩春の宵を楽しんで過ごし九時過ぎ閉会した。(梶谷守男記)

財として最近大きくとりあげられた「嫁獅子」を美演し、獅子の熱演に一同ふかく感動した。内容が鳥養先生の御郷里である阿波のおゆめ、おまつりの機縁であるところ。そのあと、福引の余興に興じ、九時洛友会の万歳を高唱して散会した。(清水勤二記)



五月二十日(土)午後五時より電気クラブにおいて支部会員九一名出席のもとに東京支部総会が開催された。この日京都本部より林重憲教授と山村幹事とがとくに出席された。先づ安達副支部長司会のもとに、富永支部長の挨拶があり、続いて相木総務幹事より三十五年度決算報告ならびに行事の報告がなされ、さらに三十六年度予算の説明があり、総会の承認を受けた。終って新役員の改選が行われ、新支部長に橋本真吉氏(日立製作所常務)、副支部長に吉田喜久次氏(富士電機輸送機部長)が選ばれた。なお総務幹事は北爪隆夫氏(国際電々有線課長)に委嘱された。林教授より教室だより、山村幹事より本部の状況が話され、終ってパーティーに入り、吉田新副支部長(橋本氏欠席)より挨拶があり、続いて本年度支部新入会員の自己紹介が行われた。本年度卒業八一名中五五名が東京支部に入会、うち三二名の出席があった。これで東京支部は七三〇名の大世帯になりました。この日総会には最長老の多田耕

鳥出 養席 先生 山村 幹事 追肴 醉物 英合せ 焼肴 あしらひ一通り 太田川生海苔 浜ばる 防風 化粧 山椒 海老具 煮油 老薑 煮油 生薑 煮油 さざえ 煮油 新筍 煮油 山蔞 煮油 天竺 煮油 文蛤 煮油 蝶貝 煮油 瀬貝 煮油 打瓜 煮油 千代田 煮油 花引 煮油 穂引 煮油 穂上 穂上

- 栄岡 彰 (大11) 佐川重雄 (大14)
- 木村一男 (大15) 木元正夫 (2)
- 真田安夫 (2) 高橋親雄 (4)
- 添田貴一郎 (6) 潮見公安 (8)
- 河野明 (12) 角井勉 (15)
- 濱口哲朗 (16) 松谷健一郎 (16)
- 井上文武 (16) 大月清一 (20)
- 竹本武明 (21) 梶谷守男 (22)
- 上米良宮夫 (23) 門野内忠幸 (23)
- 石田隆弘 (25) 戸川一義 (25)
- 仁木可也 (27) 池内浩一 (28)
- 片山敬夫 (28) 久保義淵 (29)
- 小林正 (29) 京本義章 (29)
- 奥沢祥弘 (30) 井上幸夫 (31)
- 村尾久 (34)
- 水谷量一 (大15) 三田徳平 (7)
- 高橋広市 (14)

象氏(明治三七卒)から本年度卒業生まで五十数年にわたる洛友会員のバラエティに富む会合がなされて、乙葉氏の謡があり、同志社大学齊藤氏の飛入あり新入会員の歌ありで、なごやかな雰囲気の中に総会の幕を閉じた。土曜日の夜の事として二次会に出た連中もあつたようである。

(相木一男記)

洛友会北陸支部総会記事

初夏の五月三十日、富山市内の清流松川を望む料亭奥田屋にて山村幹事、近藤先生をお迎えして三十六年度洛友会北陸支部総会が開催された。

当日はやや蒸し暑い薄曇りの日であつたが、総会は午後六時より北陸地区の会員二〇名出席の下に始められた。

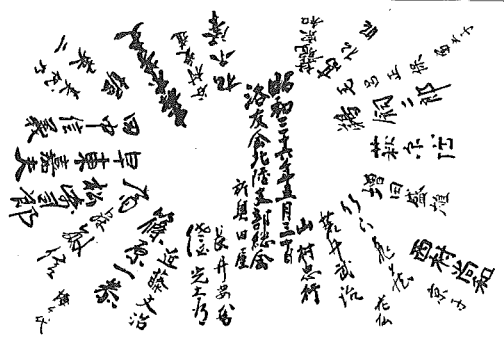
まず、長井支部長より挨拶があつた。続いて増田幹事より会計報告と



会員の移動報告、新会員の紹介があつた。総会中、神妙な御一同も水を得た魚の様に元気になり活潑な懐旧談や世間話に花が咲いた。山村幹事、近藤先生より本部の状況および教室の現況を伺い、特に最近の求人難を聞き一同昔日の感を深くした。

宴深まるうち腕に覚えのある方々の余興が始まつたが、その中で庄巻は齋藤敏信氏の手品であり、姐さん方の三味線に合せて友人はだしの手さばきには期せずして拍手がまき起つた。

正確かなうちに

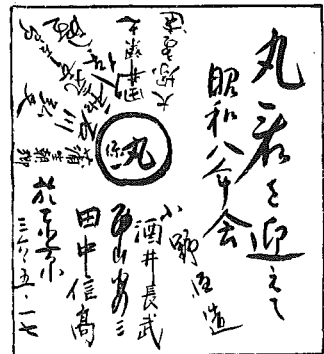


と、早くより順次署名していた寄せ書きも終り、遠隔地の方々の車の都合もあるので一応九時前に洛友会の万歳を三唱して閉会となつた。

(増田盛雄記)

東京昭和八年会

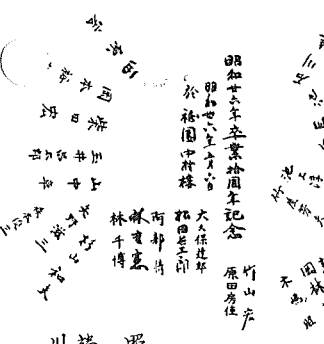
東邦レーヨン徳島工場長であつた丸君が本社取締役開発部長に榮転され東京住いとなつたのを機会に一杯祝杯をあげようぢやないかという趣旨で会合した。時は五月十七日、場所は蒲生君の肝入りで富士電機麻布寮、出席者は寄書の通り十一名で、出席率八〇%、いつも乍ら好成績であつた。田井君が血圧が高いと云つたり、蒲生君が風邪をひいたと云つていつもの元気を見せず、久保君が西式を朝夕試みて健康維持に努めているなどそろそろ身体のこと気がなる年頃になつたようでもあるが、主賓の丸君はじめ一同の英気いよいよ盛んに見受けられたことは頼母しい限りである。同窓の諸兄、上京の節は是非在京の誰かに連絡してくれ給え、集まれるだけ集めて貴兄を歓迎する。そして貴兄の気焔を拝



聴する。これは当夜集つたもの一同の言である。因みに東京昭八年の幹事は西山、和氣両君であることを付記しておく。(小野恒造記)

昭和二十六年卒業生十周年記念 クラス会の記

緑風薫る五月六日、京都祇園は中村楼において、昭和二十六年卒業生の十周年記念クラス会をもつた。往年の美少年、今や美青年となり、集り会する者二十八名。



当日は、阿部、松田、林(重)、大久保、林(千)、竹屋、池上、西原の恩師諸先生のご来席を頂いて、愈々意義深く、愉快に過すことが出来た。定刻六時半開会。阿部、松田両先生のお話を拝聴し、当時教室主任として種々お世話願つた林(千)先生にご発声頂いて乾杯。開宴。諸先生の思ひ出話を拝聴し、出席者全員の見聞報告を終る頃は、盃の往来も繁く、この十年慣性性となつた紳士口調も「お前、おれ」に逆戻り、かくてはならじと、世話係あわてて記念写真を一枚。後は盃の趨くまま。思ひ出話、珍談、奇談尽きる所を知らず。やがて初夏の夜も更け、一同先生方をお送りした時は早や十時前。尽きぬ名残りを再会に約し、祇園情緒のボンボりに三々五々、意義深く愉しかった十周年記念会を閉じた。

(川端昭記)

